参考資料1

当事者団体ヒアリングの結果について

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

トイレ

○（手すり）寒冷地では、トイレ内の気温がマイナス十何度となることが多々あり、車椅子用の手すりが金属製の場合、素手で触ると皮膚が取れなくなるため、大分前から車椅子トイレの手すりは、木を使ってもらうことにしている。

○（手すり）ハウスメーカーの施設を視察した時に、ペーパーホルダーに手を掛けて立ち上がっても壊れない頑丈なカバーを付けているということを聞いた。ペーパーホルダーは手を掛けやすい場所にあるので、頑丈にしておくと脚が不自由な方だけでなく高齢者も手を掛けながら立ち上がる時に便利だと思う。

○（洋式化）改訂案では、「和式便器を設置する場合には」と書いてあるが、家庭のトイレも洋式になっていて、和式が利用できないという方もいるので、不特定多数の方が利用するトイレは、洋式を中心に考えていただいたほうがよいのではないか。

○（操作盤）家庭用にあるような複雑な操作のものではなく、簡単に操作できるようにシンプルで誰でもが使いやすいものがよい。機能が多いと高齢者は分かりにくい。また、表示部を大きくしたり、点字を付けたりしてほしい。

○（メンテナンス）多機能トイレのメンテナンスが行き届いていないケースがある。出入口の鍵を掛けられず、ドアは閉めたが鍵を掛けずに利用したことがある。多機能トイレに限って目隠しになるカーテンがなく、見えてしまうのではないかという恐怖にさらされながら利用したことがある。

○（呼び出しボタン）急いで利用した時に、どこか触ったみたいで非常ベルが鳴ってしまい、止め方が分からず5分くらい鳴り続けた。関係者が来てくれて、もう一回スイッチを押すと止まると教えてもらって止めることができた。呼び出しボタンの位置、使い方についての案内もあるとよい。

○（乳幼児設備）乳幼児用設備について。バリアフリートイレとは別に設置するということだったが、障害のある親が子どもを連れて利用することを踏まえて、バリアフリートイレへの乳幼児用設備の設置を検討してほしい。

○（戸）一般便房では、開閉方法が引き戸、折りたたみ戸、開き戸などいろいろなので、その辺の書き方がどうなるのか。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：一般財団法人　全日本ろうあ連盟

当事者参加

○（参加段階）新しく作るときは、必ず当事者の意見を聞いてから作ってほしいが、現状できていない状況。新しい施設が出来上がってから「どうなの」ということがある。

出入口

○（車止め形状）P 型ゲート、ハートフルゲート等はやめた方がよいと思う。ハートフルゲートについては、後ろから押されることもあるようで落ち着かないので、できるだけやめてほしい。

トイレ

○（標識）一般便房の戸に和式便器か腰掛便座か、必ず表示していただきたい。わざわざ開けて確認しなくて済む。便房が使用中か否か確認するために戸をノックするが、聞こえない人はノックされても分からない。外から使用状況が分かるように、便房の戸に使用中か否かを大きく表示するという基準があるとよい。表示が汚れていたり、小さいと分からない。

○（洋式化）年齢に関わらず若い人でも和式便器が苦手な人はおり、外国人の増加も踏まえると、今後腰掛便座を望む人が益々増えていくと思う。

○（設備）トイレの混雑時、子どもが来て間に合わなそうにしている様子をよく見かける。子ども用トイレが設けられていれば良いと思うので、是非お願いしたい。

○（災害ランプ）聞こえない立場で言うと、便房の中は密室になっている。戸を閉めると外との連絡が遮断される状況になる。緊急事態が発生した時に、便房の中にいてもそれが分かるように、例えばランプを必ず付けていただきたい。

○（防犯）特に女性は、防犯面でとても不安な面を持っている。防犯対策をきちんとしていただき、安心して使えるトイレを作っていってほしい。不審者の話もあり、見守りなどもお願いしたい。

駐車場

○（支払い）障害者割引がある場合、音声対応が多いが、手帳を見せれば済むような工夫をしていただきたい。

○（非常時対応）駐車場で何かあった時、電話対応が多いが、メールなどで対応できるように、連絡先としてメールアドレスが表示されているとよい。

標識

○（位置）標識は車椅子に乗った状態で見やすいものにしてほしい。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：特定非営利活動法人　全国精神障害者団体連合会

出入口

○出入口は、障害のない人でも出入りしやすいようにするべき。坂に設けられた出入口は、車椅子もベビーカーも入りづらいと感じている。

トイレ

○トイレは利用集中するので機能分散化は理解できる。

○（利用者特性）服薬のため水を飲んだりするので、トイレに行きたくなる。

駐車場

○地元では、パーキング・パーミット制度（身体障害者駐車証）が導入されており、車椅子マークがある駐車スペースに駐車できるので、助かっている。

水飲場

○（衛生）水で薬を飲むが、コロナで蛇口を触ること、蛇口に口を近づけて飲むこと自体が衛生的ではないと感じており、薬を飲みにくい。精神障害者とは限らないが潔癖症の人は、従来の水飲み場が使えないので、検討していただけると助かる。

○（衛生）大きい公園だけでもよいので、水の自動販売機のような、例えばボタンを押すと紙カップに水が注がれて出て来るようなものがあるとよいと思っている。

用語

○ガイドラインでは「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」を書き分けるのか。バリアフリーは、いわゆるバリア、障害のある人用にデザインする、新しく出て来たユニバーサルデザインは、誰でも使えるようにデザインするということだと思う。

その他ご意見

○大きい公園で、ジョギングやサイクリングしている人がよくおり、車椅子やベビーカーを押している時にぶつかりそうになったことがある。ランナー用、自転車用のレーンがあると安全に通行できるのではないか。

○精神的に安定するのは人によると思うが、野外音楽堂、野外ステージがあると、いろいろなイベントなどに行って心の安らぎが得られると思う。次の機会でもよいので、野外音楽堂のように文化的なものを強化するようにしていただきたい。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：公益社団法人　全国精神保健福祉会連合会

当事者参加

○（参加段階）当事者参画は重要だが、当事者団体が参加しても障害を網羅することは難しいと考える。設計後や協議後、工事前にもう一度当事者が入って確認、ブラッシュアップできる場があると、ガイドラインの文章が何を意味するのか担当者の理解が進み、よい機会となる。

○（参加者）全障害が入るとよいが、多種多様な障害分類がある中で何をカバーするかという問題があるので、実際の細かいやり取りは、単に障害者の代表が入るというよりは、見識を持った者が参加し、地域や施設の主たる利用者の実例を聞くことでカバーする以外ない。

ガイドライン全般

○（特性）数値で示せるものはよいが、数値で示せない部分はなぜダメなのか、イメージできるように困りごとのエピソードや事例等で示して欲しい。好事例はそれだけになってしまう。特に発達障害や精神障害は、デフォルトを表現しにくい部分があるので、困りごとの事象を想起してもらえるようにしてもらいたい。ここは文章化したり、ガイドラインを作るところでは、表現が難しい。

出入口

○（施設間）駅などで話題になるが、施設管理者が異なる施設同士の接続部分の整備は、どこが責任を持つのか。どこが主導権を持って整備していくのか。

○（要望）設置した車止めが通行に支障がある場合もあるので、車止めの移設・再配置などを撤去せずに対応ができるような想定の設計がなされると望ましい。

カームダウン

○（要望）精神障害においては、カームダウン（静かで精神を落ちつかせる個室等の場所）について、管理事務所がある場合はそこにカームダウンを設置できるだろうが、トイレの方が設置率が高いので、トイレに併設するオプションをバリアフリートイレの中に盛り込めないか。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：公益社団法人　日本オストミー協会

当事者参加

○（参加者）地域の障害者団体と連絡を取るなりして、実態を聞いて反映していただくことが必要。基準に基づいて整備したものの、いざ出来上がってみると使いにくいことが、結構ある。

トイレ

○（標識）最近増えて助かっているのが、男女の別や便所内部の配置、設備などがピクトグラムで表示されている配置図。利用する側は利用しやすいので、推進していただきたい。オストメイト用設備が設置されているにも関わらず、オストメイトのマークが付けられていない場所が多い。オストメイトは、オストメイトのマークを目安にして入るので、必ず付けていただきたい。

○（汚物流し）装具の交換ではなく、パウチ内の排泄物を出す作業を行う際、家庭内では腰掛便座の前に膝をついて作業できるが、公園などは床が汚れており、膝をつけない。立ったまま作業するために、腰の高さにある汚物流しが必要。

○（温水）人工肛門の造設位置により、水様便か有形便かが異なるなど、オストメイトにもいろいろな方がいる。直腸のすぐ上に人工肛門がある人は、皆さんと同じような便の状況で、パウチ内から便を出すのに大変苦労する。その時、お湯の方が落ちやすくよりきれいになり作業時間も短縮されるため、可能であればフルスペック、簡易型共に温水が出るものとしてほしい。

○（簡易型）簡易型オストメイト用設備で装具を交換する場合は、床に跪いて腹部を出して作業しなければならず、大変困難。トイレ自体を便で汚したりするケースが多々ある。やむを得ない場合は仕方ないが、できればフルスペックのものを設置してほしい。最近は、例えば北陸新幹線にオストメイトトイレが付いているが、各メーカーからかなりコンパクトなものが出ている。

○（鏡）装具の間から排泄物が漏れていたら、両手を使って装具を剥がし、剥がした部分に付いている排泄物をきれいにして、もう一度貼り直す。きちんと貼れているか確認する必要があるため、鏡が必要。

○（トイレットペーパー）トイレットペーパーは汚物流しの傍に必要。装具を剥がした部分に付いている排泄物をふき取ったり、汚物流し等の周囲の汚れた時にも使う。

○（着替え台）装具交換やパウチ洗浄の際、下半身の服を全部脱ぐ必要がある人は、かなりいると思う。特に公衆トイレは床が濡れている場合があり、上手く脱げずに汚物が下着やズボンに付いたりすることがあるので、着替え台は必要。着替え台は、汚物流しに近付けなくてもよいと思う。

○（荷物置き）装具内の汚物処理・交換時等、周りに付いている排泄物をきれいに取ったりするので、両手を自由に使える状態にしておく必要がある。そのため、フック、荷物置きなど、脱いだ服を置く場所が必要。おむつや装具の中にある便は臭わないが、他のものに付くと大変で、そのままでは外に出られない。そういうことに気を配りながら、自分の周りをきれいにすることになる。精神的には非常に厳しい状態になるので、なるべくいろいろなことがフリーな状態で作業できることを望む。

○（設備）オストメイトは、全国で 21 万人いる。病気やケガなどで人工肛門・人工膀胱造設する人が増えている。高齢者の増加と女性や若い方のオストメイトも増加している。高齢になると、自分で作業するにしても、ある程度余裕のあるスペースや状況を作らないといけない。

情報提供

○（重要性）女性や若い方のオストメイトも増加し通勤や買い物、旅行など移動するオストメイトがオストメイトトイレを利用したい時は、緊急を要している場合が多い。オストメイト用設備がある場所をオストメイトが認識できていることが非常に大切。よく行政では、トイレマップにオストメイトマークが付いたものを配布している。

○（災害）公園は、災害時は避難場所にもなるケースが多い。便所にオストメイト用設備があると表示するとともに、公園の出入口で、公園内のどこに乳幼児用設備やオストメイト用設備を設けた便所があるか分かるとよい。

○（啓発）オストメイトマークを出入口に表示していただいているが、認知度が高くないので、一緒になって認知度を高めていきたい。多機能トイレから出た時に、健常者のように見えるので、何故使っているのかとよく言われる。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：一般社団法人　全国手をつなぐ育成会連合会

園路及び広場

○（段差）歩けても歩行が不安定な人が多いので、路面はできるだけフラットにしてほしい。

○（園路固さ）知的障害者は重複障害の人も結構いる。車椅子で公園を利用する時、固い地面ならよいが、砂利など軟らかいところでは車椅子が動かなくなってしまう。公園全体ということではないが、そういうところも考慮していただきたい。

トイレ

○（便房サイズ）知的障害者は、トイレの介助が必要な場合があるが、車椅子使用者や他にも必要な方がいるので、使いづらい。一般便房は、大人2人で入るともの凄く狭く、排泄させるのも大変。障害特性で衣類を汚してしまった時は、トイレで着替えることになる。できれば一般便房と多機能トイレの中間の広さの便房があるとよい。おむつ交換台付きの便房よりは狭くてよい。体が大きな方が入るのにもよいのではないか。

○（啓発）知的障害者の場合は、人の目線をとても感じる。戸の前の表示で、どういったことに困っている人に対応したトイレか分かるようになっていると、多機能トイレに入っても白い目で見られないかと思う。

○（分散化）機能を多機能トイレに集約することによりトイレの数が少なくなるので、数の問題で使いづらい。それほど機能にお金をかけなくても、簡便に出来るような視点で、広さや機能のパターンを幾つか示してもらえると具体化しやすくなるのではないか。

○（設備）新国立競技場でカーテンが設置され、順調に利用されている模様。介助者・保護者が用を足している時に、本人が待てるように待機用の椅子が用意されているとよい。そういうことも含めて機能強化する視点での幾つかのパターンを出していただくとよい。

○（男女共用・啓発）父親が娘の介助でトイレに行く時もあるので、そういう利用に対応するものもあってほしい。

標識

○（表示）設備の説明や公園内の案内なども写真、絵、分かりやすくひらがな表記、マーク、ピクトグラムなどの工夫が必要。

管理者等への啓発

○（普及啓発）知的障害、発達障害は、普通の人から見るとよく分からない行動に見える時がある

ので、公園管理者に知的障害・発達障害に関する講座を受けてもらい、理解していただくと大変ありがたい。啓発キャラバン隊というものがあるので、ご利用の際は連絡いただけたらと思う。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：特定非営利活動法人　DPI日本会議

当事者参加

○（参加段階）計画や基本設計の段階から多様な障害者の参画が重要と書いていただいており、大切な視点。是非入れていただきたい。

ガイドライン全般

○（特性）車椅子使用者だが、皆さんと同じ生活の基準でバリアフリーのあり方を考えていただきたい。施設の理由で行けないという状況を作らないようにしていただきたい。

○（段差）各所に出て来る「車椅子使用者が通過する際に支障となる段」について、どの程度が支障になるのか具体的な数字を示すか、もしくは設計段階から当事者の意見を反映して欲しい。

出入口

○（幅員）P型ゲートは、大きい車椅子は通れない。最上部まで有効幅90cm確保は、非常に有効。

○（管理）元々車止めがなく幅員が十分確保されていたところに、車止めのようにしてプランターを置いている公園がよくある。プランターが動かされて、車椅子が通れない時が結構ある。

園路及び広場（出入口以外）

○（円滑化園路）バリアフリールートは、必ず整備していただきたい。デートしたい若い人たちであれば、雰囲気がよいところ、人が少ないところに行きたくなるが、それは車椅子使用者も同じ。バリアフリールートの複数化も重要。駅は従来ワンルート確保でよかったが、規模に応じて複数化することが2019年から盛り込まれた。大きい公園は、複数ルート化する視点も必要。

○（設備）つづら折りのスロープは、上がりたくない。立地上そういうスロープになるのも仕方ないと思うが、その場合エレベータを設置していただきたい。

トイレ

○（一般トイレ）一般トイレのユニバーサルデザイン化は、大事な視点だと思う。

○（複数化）多機能トイレは1つでは足らない状況。広いスペースを必要とする人は、ベビーカーなど車椅子使用者以外にもいるので、複数設置を「望ましい整備」で触れていただきたい。1箇所目は大きなバリアフリートイレが必要だと思う。2箇所目以降は、スペースがあればバリアフリートイレ、それが難しい場合は簡易型多機能トイレを設置することでも有効だと考えている。簡易型

多機能トイレがあれば、手動車椅子使用者はそこも使える。

○（数、情報提供）子育てをしている時に、公園のトイレに大変苦労した。多機能トイレ不足と、公園の車椅子用トイレはおむつ交換台が少ないため、それを探さなければいけなかった。

○（設備）車椅子使用者、ベビーカーの子供、同伴者の3人がトイレに入り、おむつ交換をしたり、子どもが漏らして全取替しなければいけない時に、着替えができる場所がない。公園に行くときは荷物も多いので、車椅子の親、健常者の子ども、支援者のことも考えて欲しい。子育て団体に加えて、障害児を育てている団体、障害者が子どもを育てている人の視点も入れてほしい。

○（配置）子どもの遊びたい場所に反して、私たちが入れるトイレの近くで遊ばせなければならないことがあるので、多機能トイレの配置を考えてほしい。砂場が近いと、砂が入って来て床が滑りやすくなるので、砂が入って来ないような工夫を考慮していただきたい。立ち上がって手すりに掴まりながら移乗する車椅子使用者は、床が滑るだけで怖い思いをする。

駐車場

○（啓発）車椅子使用者用駐車施設に一般利用者が駐車して使用できないことがあり、利用マナーを徹底して欲しい。

○（基準）車椅子使用者用駐車施設が1台しかない場合すぐ埋まるので、最低基準として2～3台が必要。

○（事例）角の駐車区画は、車椅子でも乗降可能な場合があるので、そういう区画を選んで利用する。車椅子使用者用駐車施設以外に優先スペースがあるとよい

標識

○（事例）新国立競技場では、発達障害、知的障害にも配慮し、表記は文字を増やさず、明確に分かるよう工夫した。

○（配置）特にバリアフリールートとトイレの場所は、車椅子使用者にとって重要な情報なので、例えば公園内の要所にルートを表示した案内板を設置して欲しい。

休憩所・管理事務所

○（円滑化園路）管理事務所は、車椅子が行けないことがある。車椅子使用者が何かあった時に管理事務所へ行けるように、バリアフリー整備をする必要がある。

○（複数化）管理事務所内のバリアフリートイレも複数化が必要。

○（基準）子どもに授乳したい時は、管理事務所に助けを求める。その時、おむつ交換の場所があっても車椅子で入れる場所がない。

野外劇場・野外音楽堂

○（数）車椅子使用者用客席・観覧席の数は、「建築設計標準追補版」（H27.7）で、客席・観覧席総数の 0.5～1%以上となった。公園のガイドラインでは、50 席以下の場合は 1 席となっているが、グループ利用を考えると、3 席以上など最低基準が必要。スペースを作っておくだけなので、車椅子使用者がいなければ移動式の椅子を持って来れば、座れるようにもなる。

○（配置）同伴者・介助者が隣に座ることを基本にして欲しい。Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインでは、義務化されている。

○（配置）大きいところであれば、車椅子席を 1 箇所に固めず、垂直水平に分散配置して、いろいろな場所を選択できるようにしてほしい。

○（規格）前の人が立ち上がっても見えるように、高低差をつける（サイトラインの確保）ことも必要。

○（規格）前方に手すりを付ける時、手すりが目の高さになって見にくいことがよくあるので、できるだけ手すりは低くしてほしい。新国立競技場は、都の条例基準のギリギリの 75cm になったと思う。80cm 以下であれば概ねよいと思う。

ベンチ、野外卓

○（野外卓）4面全部に固定のベンチがあると、車椅子は入れず使えない。1 箇所は可動式ベンチにするか、固定ベンチを設置しないことが必要。

○（路面固さ）車椅子使用者も一緒に利用できるベンチが足りない。あっても、通路はコンクリートなのにベンチの下が土で、同伴者はベンチに座れても車椅子使用者はベンチに近付けない。特に、雨の日の後はぬかるんで入れない。現行ガイドライン p.84 の事例写真「高さの異なるベンチ」は、両サイドが花壇になっており、車椅子使用者はベンチに近付けないので差し替えが必要。

○（増設）最近は、昼間に行くと割と老人ホームの方々が散歩に来ていて、ベンチに苦労していると聞いている。増やして欲しい。

情報提供

○（管理情報）時間で施錠されてトイレが使えなかったり、使いたい時に使えない状況。車椅子トイレだけが時間で閉鎖されていることがあるので、改善していただきたい。

○（提供方法）視覚障害者が情報を得られるよう、テキストデータによる情報提供など、ウェブアクセシビリティの確保が必要。

特定公園施設以外の施設

○（数・配置）野球場やテニスコートの観覧席も野外劇場と同様に考えていただきたい。

○キャンプ場もバリアフリー化が遅れていると感じている。。トイレ、移動ルート、炊事場といったところだと思う。バーベキュー場の炊事場の流しは、車椅子使用者でも使えるようにしてほしい。

○各地でユニバーサルデザイン遊具が評判になっている。東京で最初に導入された砧公園には、安全ベルトが付いているぶらんこ、寝たまま乗れるものなどいろいろあり、とてもよいと思った。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：社会福祉法人　日本視覚障害者団体連合

当事者参加

○（参加段階）設計段階、工事の途中段階、工事が終わった後の各段階で確認できるようにしてほしい。当初設計で意見が通っても、工事段階で変更されることがあるため、途中段階で意見の反映状況を確認できるようにし、また、完成時に検証して、反映出来ていない場合は手直ししていただくのが望ましい。障害者は、ちょっとしたことで影響を受けることがある。

○（団体参加）当事者参加となると、個人の意見ではなく、できればいろいろな人の意見を集約した当事者団体の意見を聞くということにしていただきたい。

○（参加者）公園は、一番大事なのは地域の子ども会、老人会、地域の障害者団体、自立支援協議会もあるので、そういったところと意見交換するのが一番大事だと思う。

出入口

○（入口の変化）視覚障害者にとって、バリアフリーのために入口をある程度広めにし、しかも段差が解消され全くフラットな状態だと、足から来る感覚がないため、どこから公園が始まるか分からない。車止めがあると、視覚障害者が間違って公園に入っていかないというのがある。

○（車止め色）弱視の人は、車止めが地面の色と一緒だと分からない。色の変化、輝度の差は付けた方がよい。ステンレス製の車止めは、太陽光に反射して存在が分かる場合もある。夜間は全く見えない車止めもあるため、車止めがあると分かるように明るさを確保してほしい。

○（車止め高さ・形状）全盲の場合、車止めが小さいと膝や股間に当たることがある。できれば腰から上の高さのほうがよい。また、下の方がないと、本当に怖い。上手く白杖に当たってくれればよいが、すり抜けて車止めにぶつかることがある。2本の車止めの間にチェーンを渡しているものがあり、引っかかって転んだことがある。

園路及び広場全般

○（点字ブロック）視覚障害者は、点字ブロックの上を歩く人もいれば、点字ブロックの横を歩く人もいる。C 型ゲートにおいて、点字ブロックがポール部分の真横にかかっているとぶつかってしまう。

○（点字ブロック色）路面と似通った色は、視覚障害者だけでなく高齢者も困ることを記載していただきたい。実際に路面と同じ色の点字ブロックが敷設されていて、そこに引っ掛かって転倒して点字ブロックに顔をぶつけて負傷したというクレームが来た。

○（照明）公園を夜使うこともある。弱視の人にとっては均一に明るさを確保してもらう方がいい。防犯の観点からも明るい方がいい。工夫していただきたい。

○（植込み段差）園路の真ん中に植込みを設ける場合、境界部分を踏み越えて植込みに入ってしまい、足を取られることがある。何かで囲うなど、白杖で確認できるような中に入らないようなものを検討していただきたい。

トイレ

○（標識）ピクトグラムによる機能の表示について。特に弱視の人が利用できるように、見やすさ、大きさ、高さを配慮するよう記載してほしい。公園で一番多いのは乳幼児だと思う。視覚障害者の子ども連れが使うことも多いので、何らかの表示関係はしてもらう必要がある。

○（色合い）一般便所内の色合いについて。小便器に対して、床と壁の色合いによって使いやすさが随分変わってくる。小便器があるということが分かるように色のコントラストつけてほしい。明るい色の中に白い洗面器のように、色の配慮がなかった。

○（境）トイレの敷地内と敷地外が分からないので、そこで気を使う。

○（荷物置き他）隣が気にならないように小便器ごとにパーティションを付けた方がよい。

○（配置）一般便所の中央部分に手洗いが設けられている場合、誰かが使わないとどこにあるか分からない。視覚障害者への知らせ方を入れていただきたい。

○（鍵形状）一般便房の鍵のスタイルがバラバラ。統一できないものか。非接触で施錠できるものもあるようだが、視覚障害者は触らないと分からない。鍵の掛け方が分からないと、閉めずに用を足して恥ずかしい思いをするという話も聞く。

○（乳幼児設備）公園は、近くの保育園児、幼稚園児が大勢来ている。先生がおむつ交換などで忙しいので、そういう人たちの対応を考えてほしい。公園のトイレは、視覚障害者の子ども連れも利用するので、乳幼児用設備があることを表示や音声で案内してほしい。

○（空間認知）視覚障害者は、全体的に広い空間の認知が難しいということをぜひ押さえておいていただきたい。

○（呼び出しボタン）便器洗浄ボタンだと思ったら、呼出しボタンだったということがある。呼出しボタンと便器洗浄ボタンを間違えないように、呼出しボタンがあるということを示す必要がある。

○（盲導犬）盲導犬と一緒に多機能トイレを利用させてもらうということが多いと思う。盲導犬の利用もあることを認識しておいてほしい。盲導犬の排尿は、砂があるところでさせるのが一番よいが、公園では人目や衛生面からなかなかそういかない。袋に入れてトイレで流したり、簡単な砂があれば固めて持ち帰ることもある。

○（音声案内）入口でまとめて案内されても覚えきれない。入って右斜め前に便器があるとか、そういうかたちで案内する。音に関して過敏な方もいるので、便器の方から音が出るとかあると移動できる。

駐車場

○（駐車場）車椅子使用者は雨天時に困るので、できれば屋根付きにすることは必要だと思う。

標識

○（触知板・図）全盲でも弱視でも公園全体を知りたいときは、触知図や案内板を使う。弱視の方でも読みやすいようにカラーにし、文字サイズを大きくしてほしい。触知図を触りながら歩くのは難しい。立ち止まった時に、どういう施設があるのか、どういう位置関係になっているかという感じで使う。

○（現在地）本当は、触知図の横にボタンがあって、管理者に繋がるようになっていれば、大変嬉しい。点字が難しい人もいる。

○（表示全般）公園全体に言えるが、視覚障害者が公園内を単独で歩くのは難しい。段差がない出入口、エレベータなどバリアフリー設備の設置場所の案内がしっかりされていないがために、よく分からない。全ての人が分かりやすいという観点の表示を是非お願いしたい。

○（表示全般）全盲のお母さんと目の見える子ども、その逆で公園を利用することがある。視覚障害者が例えばどこにトイレがあるか、分かるようにしてほしい。

情報提供

○（音声案内）大規模公園は、音声で出入口を入るとどうなっているかなど、案内の CD のようなものがあると利用しやすい。公園内で現在地を把握するのにあるとよいと思うのが、音声とセンサーの組み合わせ。センサーとカメラと音声を組み合わせて、どこを触ったらいいのか、迷ったりしないように、そこに行けば位置が分かるようなものがあるとよいと思う。そこを通過すると「今どこですよ」のようなもの。

○（好事例）全盲の保護者が子ども連れて公園を散歩したりする時には、公園全体がわかるような、点字による地図、音声で分かるようなものが公園に常備され、貸与・無料配布などがされていると利用しやすいと思う。都立野川公園は、冊子型の点字マップを作っており、貸し出しもしていて、施設の事前情報として、大いに役立つ。好事例として紹介してほしい。

災害時対応

○（災害）公園は、災害時の観点がガイドラインから抜けている。健常者だけが避難するわけではないので、そういった観点からも整備するというのをしっかり概念的に入れてほしい。

ガイドラインの公表

○（情報発信）PDF の場合、視覚障害者は何が書かれているか読み込めない。ガイドラインの公表に当たっては、テキストデータ、ワードデータなど視覚障害者もアクセスできる形式で併せて掲載していただきたい。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：特定非営利活動法人　せたがや子育てネット

当事者参加

○（参加段階）計画段階だけでなく、予算をつける人や設計者と対話ができるしかけが、どこかに約束されるととてもよい。ヒアリングしてから取組む、現状のトイレを一緒に見るワークショップなど。直接親子を公募するのが難しければ、地域の子育て系団体が協力できると思う。

○ステークホルダーとして対話する機会を持っていただきたい。ガイドラインに書かなくても周知する方法があればやっていただきたい。

出入口

○（車止め）障害のある子ども用の車椅子、二人乗りベビーカーが入れるか。二人乗り縦型ベビーカーは、くねくね曲がらないといけない場合やＣ型ゲートは通れない。

トイレ

○（表示）ボタンがたくさんあって使い方が分からなかったり、呼出しボタンが付いていたりする。子どもにも分かるように表示していただきたい。

○（鍵）鍵は、子どもが開けてしまわないように高い位置に必要だが、一方で子どもが開けられるように低い位置にも必要。

○（サイズ）ベビーカーごと入れるトイレが本当に求められている。双子連れやベビーカーでないと出掛けられない人がいる。ベビーカーと上の子など何人か子どもを連れているときは、待たせておくスペースが必要。

○（ベビーチェア）ベビーカーを便房の外に出して、大人だけ中に入るのは、特に公園の場合連れ去りなどが危険。十分な広さが確保できない場合は、ベビーチェアを必ず設置できないか。皆、洗面所にもベビーチェアがあるとよいと言っている。「一般便房にベビーチェア設置することが望ましい」とガイドラインに書かれていても、「望ましい」では結局設置されない。

○（着替え台）着替え台は大体便房の中にあるが、入口付近に少しゆとりがあって子どもを着替えさせるスペースがあるととてもありがたい。

○（要望）トイレの入口に屋根があるとよい。多機能トイレにベビーカーごと入っておむつ交換するが、待っている人がいるので、皆焦る。多機能トイレ内で最低限度のことを済ませて、残りの作業を多機能トイレの外ですることは結構あるので、皆、庇があればよいのにと言っている。

標識

○（表示）ピクトグラムやひらがなを使い、子どもも見える位置に設けてほしい。

○（方位+機能表示）出入口の案内板で確認できるのはもちろんだが、広い公園の場合、どちらのトイレに行けばよいか判断できるように、オストメイトの有無などトイレの機能を腕木型標識等に表示できないか。

手洗場

○（維持管理）蛇口を取り外していたり、使えないようになっているところがある。

制札板

○公園は禁止看板がとても多く、子どもは来るなみたいなものも横行している。禁止看板はルールなので、勝手にルールが作られている状況。看板がそもそもバリアで利用できなくしており、放っておいたら子どもが利用できなくなる。子どもには遊ぶ権利があり、国連からも勧告が出ている。

用語

○子育て層も意見を言う場に入れてもらえるようになったが、結局「高齢者、障害者等」と書かれている。「高齢者・障害者等」だと公園利用者のメインの一つである子どもが認識されにくい。「など」とせずに、「子ども・子育て」と明記してほしい。また、子どもと言った時に、子どもと連れて来る親の二者がいるということを、ターゲットをきちんと見えるようにしていただきたい。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：一般社団法人　日本発達障害ネットワーク

当事者参加

○（参加者）公園では出入口の課題があったが、一方の意見だけでは他方が困る事態もあり、工夫していくことが必要。法改正、ガイドラインの改正はとてもよい機会であり、障害者同士の理解も重要だと思う。無いと困る人が最優先されると思う。

園路及び広場

○（特性）発達障害の障害特性からすると、移動等の困り感は、他の障害特性と異なる視点が必要。

トイレ

○（標識）昨今、異性介助が増えており、男女共用、異性介助に対応できるトイレは、それと分かるように表示してあると安心できる。

○使用中か否か、どの程度待てば使用できるか時間表示は難しいと思うが、何かできないか。使用中の人は、外で待っている人がいるか分からないので、待っている人がいることを伝える手段がないものか。双方向の状況が分かる工夫があるとよい。

標識

○（表示）公園の出入口で、どのようなものが整備されているか、分かりやすくピクトグラムで表示した案内板などで確認できると、利用しやすくなるので検討していただきたい。

○（案内方法）公園内に複数便所がある場合は、便所の傍に同様の設備がある別の便所がどこにあるか表記できるとよい。利用者が事前に調べてから行くことも重要であるが、外出を妨げる要因の一つにもなっている。

情報提供

○（啓発）困っている方が利用したい時に利用できることが一番のポイントなので、利用面の啓発など、情報提供の中で普及していただきたい。トイレの数にもよるが、機能でそこしか使えない方が優先は重要。

○（啓発）障害に対する啓発と、一般の方への浸透については、実際に接してもらうことが一番よいと思っている。公園は様々な方と接する場でもあるので、それによって障害の理解に繋がっていくことを期待している。

○（情報発信）駅等から公園までの経路のアクセス性が確保されているかが、多くの障害者にとって最も重要。

○（現況情報）「公園はこのような方も利用しています」といった情報があると利用のハードルが下がる。当初に当事者団体から意見を聞くのも重要だが、整備後に利用状況にどのような変化があったのかが分かるとよい。利用できるようになった、新たな利用者が増えたといった情報で出ると、外出する際に役立つ情報になるのではないか。

都市公園のバリアフリー化やガイドラインの改訂方針に関するヒアリング結果

ヒアリング先：公益社団法人　全国脊髄損傷者連合会

当事者参加

○（参加段階）設計ができてしまうと、手直しにしかならない。設計の一番最初の段階、イメージを膨らます段階での当事者団体の参加を実現していただきたい。

出入口

○（幅員）有効幅 90cm は、車椅子の大型化や、自走など使用状況によっては厳しい。車椅子を押してもらう前提であれば 90cm はそれほど狭くないかもしれないが、電動、手動に関わらず自分で移動する場合はそれほど広いとは思えない。

トイレ

○（サイズ）アメリカなどでは一般便房自体が広い。一般便房の広さは特に明記されないのか。バリアフリートイレをユニバーサル化するのではなく、一般便房を多様な方が使用しやすい広さに検討することが必要なのではないか。

○（機能分散）車椅子使用者で子育てをしている方がいるので、バリアフリートイレにも乳幼児用設備が必要。1 箇所に全部機能を詰め込んだ多機能トイレは、できる限り機能分散を進めていただきたい。既存トイレの改修も含めてお願いしたい。

○（男女共用）LGBT についても検討してほしい。

駐車場

○（仕様）国土交通省のパンフレットでは、全面青色塗装の車椅子使用者用駐車施設を掲載している。ゼブラゾーンなくし、全面青色塗装、国際シンボルマークのみにして欲しい。事例写真も同様にしてほしい。ゼブラゾーンはドアを開閉するためのスペースであるが、ドアを閉めているとゼブラゾーンに自転車などを置く人がいるので困る。

○（規格）車椅子が後ろから乗降するタイプのリフト車が多いので、後部から乗降する時の奥行について、「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」に基準があり、バンの駐車場は幅 4600mm で、奥行き 8000mm のスペースを確保することが望ましいとなっているので、それを参考にして欲しい。また、雨天時対応の屋根について検討して欲しい。

情報提供

○（情報提供）施設によっては、基本的に夜間は施錠され、管理室から一番近いトイレのみ一晩中開いているケースがある。仕方ない部分もあるが、連絡したら開けてくれるといいのだが。